



もみじの木

このお話の舞台は、岐阜県上臈町の本町。たぐまんの峠に囲まれた、美しい静かな里山です。

もみじの木 ①



ぼくは、
ずっとひとりぼっちで生きていた。

もみじの木 ②



ある朝の日、
小さな男の子がぼくを見つけた。

もみじの木 ③



その男の子は、そばにやってきて、
ぼくのことをじっと見つめた。
「めくろをゆらー」
次の日、

もみじの木 ④



もみじの木 ⑤

その男の子は、桃と、いっしょに、やってきて、
二人で、ぼくのことを、じーっと、見上げて、
また、次の日、
二人は、おぼろさん、連れてきて、
二人で、ぼくのことを、じーっと、見上げて、
次の日も、また、次の日、
男の子は、桃か、だんかを、連れて、やってきた、
いつの間にか、たくさんの人が、
ぼくのところ、に、やってくるように、
なつた、
どうして、ぼく、を見て、いるのか、
おぼろさん、だけ、
みんな、おぼろさん、顔を、するから、
なんだか、ぼくも、おぼろさん、な、持ち、に、なつた、



もみじの木 ⑥

おぼろさん、高つた、柱の、目、
二人の、男の子、固つ、顔、中、
あかり、を、持、つ、て、ぼく、の、と、こ、ろ、へ、や、つ、て、き、た、
見、た、こ、と、が、あ、り、よ、う、な、その、男、子、は、
今、は、も、う、大、き、な、つ、た、あ、の、男、子、だ、つ、た、



もみじの木 ⑦

その男の子は、ぼく、の、足、元、に、
あかり、を、お、い、て、ぼく、を、照、ら、し、た、
すると、ぼく、の、影、が、
池、の、上、に、ぼ、つ、と、写、り、か、げ、ら、れ、た、



もみじの木 ⑧

その時、ぼくは、生、ま、れ、て、初、め、で、
池、の、水、に、映、る、自、分、の、姿、を、み、た、
それが、ぼく、
あ、あ、な、ん、で、さ、れ、い、た、ん、だ、ら、う、
ぼくは、自、分、の、涙、を、さ、し、た、う、つ、と、り、し、た、
男、子、は、に、つ、こ、り、し、た、
そして、その、後、も、
な、ん、だ、も、夜、に、な、る、と、や、つ、て、き、て、
ぼく、を、照、ら、し、続、け、た、



もみじの木 ⑨

そのときに、そが、うわきに、なり、
となり町の、人々も、
ぼくに、会いに、やってくるように、なつた。
さらにかきかき、は、は、は、
遠くは、ほら、人々までも、
ぼくに、会いに、やってくるよう、なつた。

Copyright © 2011 by ...



もみじの木 ⑩

男の人と、町の人は、
ぼくが、もつと、多くの人に、会うことが、
できるように、知恵を出した。
男の人は、
ぼくと、一緒に、人々が、
車を、停めるのに、困らないように、
道を、選んでは、
ここを、車を、停めるために、
掘らせて、ください。
と、男の人の、手で、掘らして、掘った。
もの、すく、大きな、石を、掘り、
穴を、掘って、埋め、
新しく、歩き、道を、作つたり、した。

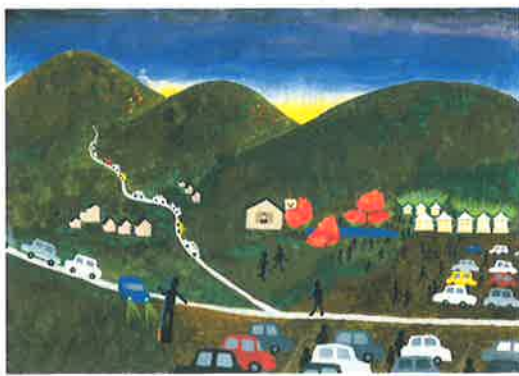
Copyright © 2011 by ...



もみじの木 ⑪

町のお父さんならは、
早く、作事を、仕事、作り、
ぼくの、困りを、まわした。
町の子ども、
車道を、手取、つくれた。
町のお目さんならは、人々を、もてなそうと、
大層に、いい、汗を、削って、ふるまうた。
町の、お目さんならは、汗を、削いて、
道は、まわし、汗を、削って、
人々を、まわすよう、した。
どなた、男の人々が、やっても、
げ、あやまら、
町の人、道、あら、立ち、
人々を、安全に、ぼくの、
案内すること、を、促した。

Copyright © 2011 by ...



もみじの木 ⑫

町の人のおかげで、快にならなは、
ぼくの、困りは、と、
こうして、ぼくは、
「さあ、さあ、さあ」と、
いつのまにか、大層な、
人達、
さあ、さあ、さあ、
さあ、さあ、さあ、
さあ、さあ、さあ、

Copyright © 2011 by ...



もみじの木 ⑬

左でだか ちよつぱり きびしかった。
みんなは いつも 俺を あそびたいばかり。
さかまの ぼくを ぼくばかり。

本町の ぼくは ここにいるのだ。
やっばり ぼくは ひとりぼっちなのかな。

—めくりをゆら—
そう 思った時。



もみじの木 ⑭

僕が ぼくの 体は そつと 手をあてた。
「元気が たいようだけど、どうしたんだい？」
と 言われたような 気がした。

僕が ぼくの 下は あつ 別の人の 手だった。

その時 ぼくは ぼく だけ いた。
別の人が ぼくを ぼく だけ いた。
ぼくは ぼく だけ いた。
ぼくは ぼく だけ いた。

あつ ぼくを ぼく だけ いた。
ぼくは ぼく だけ いた。
ぼくは ぼく だけ いた。
ぼくは ぼく だけ いた。

ぼくは ぼく だけ いた。
ぼくは ぼく だけ いた。
ぼくは ぼく だけ いた。
ぼくは ぼく だけ いた。



もみじの木 ⑮

ぼくは この 別の人と
一緒に 生きてきたんだ。

これから 何年か たって
もしかしら 人は ぼくで なくなる日が
きたとしても、
ぼくは この 別の 人と ぼく だけ いて
明を そつと 見守つていよう。

(おわり)

- 備考 1 語りの文章は、最後の絵の裏に最初の絵の文章が来るようにし、順次制作しました。
- 2 曾木公園もみじライトアップ期間中に上映したスライドショーは、一画面の中に画像を左側に、語りの文章を右側に張り付けるよう加工しました。

以上

添付資料第2



曾木公園を訪れスライドショーを見入る見学者たち



「曾木くらしのしるべ」での紙芝居のお披露目



先生の語りに聞きいる子供たちは、地元のもみじライトアップがどうやってできあがったか、もみじの木が「ひとりぼっちではない」ことに気づき曾木の人たちと一緒にいるという気持ちを感じ、目を輝かせていました。

